

認定中古車とは？

入念な整備と手厚い保証

認定中古車とは、正規ディーラーが整備と保証を加えて販売する中古車のこと。自社で販売され、点検・整備されていた程度良好な中古車を仕入れ、入念な納車整備を施して内外装や機関をリフレッシュ。その上で、1年もしくは2年の保証が付いてくる。中古車、それも輸入中古車を購入する上で、最も安心できるシステムと言える。

整備や保証の内容は、ブランドごとに異なるが、概ね、高年式、低走行、無事故の正規輸入車が対象で、100項目前後の点検を済ませ、車両状況に応じた部品交換を行い、1年以上の保証期間を設けるというのが一般的な話となる。

今回取材したボルシェの認定中古車の場合、新車登録から9年以内、走行距離20万km以内、法定整備を正規ディーラーで受けた無改造の車両が認定中古車の対象となる。対象車の範囲が他ブランドより広めなのは、ドイツ本国のメーカーが認証するからだろう。それだけ製品に自信を持っているのだ。

点検は111項目に上る。消耗品の基準も厳しく、例えばタイヤなら7分山以下で交換。この納車点検・整備で、中古車として不安な要

素はほぼ解消されてしまう。元々品質面に妥協のないボルシェの製品だけに、内外装の耐久性も高い。形は最新型にはならないが、コンディションは新車並みに保たれているのだ。

保証の内容も手厚い。基本は1年間だが、中古車保証の範囲内(初年度登録から9年以内、24か月保証なら8年以内)なら、2年まで延長が可能。この期間は、点検、車検、消耗品交換は有償ながら、それ以外の修理は全て無

償。しかも走行距離の制限なく保証してくれるというから安心だ。おまけに24時間のエマージェンシーサービスも1年間付く。まさに新車並みの保証なのだ。

輸入SUVには憧れるが、新車は高すぎて買えない。中古車ならなんとか手が届きそうだが、程度やメンテナンスが心配。そんな悩みに応じてくれる、信頼と安心の中古車。それが認定中古車なのだ。



ボルシェの場合、認定中古車の点検は111項目。そもそも正規ディーラーにて定期点検を行っていた車両が対象なので、不意のトラブルの確率はかなり低いと言える。消耗品を含め、メーカーの基準に満たない部品は全て交換。もちろん部品は純正品だ。保証内容も新車並み。輸入車を、中古で買う際の不安はほぼ払拭されていると言える。



ボルシェセンター高崎・前橋

町田卓也さん

ボルシェはモチベーションを高めてくれるクルマ。購入時は多少割高に感じるかも知れませんが、リセールは高いので、似たような価格の他車より結果的に安いこともあります。お買い得な認定中古車で、ぜひボルシェの魅力に触れてください。



今、認定中古車を選ぶ理由

中古車の不安を取り除く方法

「クルマは新車に限る」、というのは理想。最も程度が良い状態で乗り始められ、販売店から最も濃厚なサービスが受けられるのだから。オプションなど、好みの仕様を選ぶのも自由自在。しかし、その理想には、結構な出費が必要だ。低金利ローンや残価設定ローンなど、販売形態の多様化で購入の敷居は低くなってはいるが、クルマ本体の値段が安くなるわけではないのだ。

あくまで新車にこだわって、しかしフトコロ具合の問題で安いクルマしか買えない…というのは不幸だ。

高いクルマには、高いだけの理由がある。そしてその魅力は、新車でしか味わえないわけではないのだ。新車ではなく、中古車で買うなら、価格はグッと身近になる。

たとえば、ミッドサイズ以上のSUVを買おうとしよう。予算450万円なら、国産の新車を買える。「新車である」という満足度は確かにあるだろうが、機能や性能、そしてステータス性はどうか？ 同じ予算で、中古車に目を向ければ、はるかに上質で高性能な、所有欲を満足させる一台に出会えるはずだ。

問題は、中古車の場合、程度が一定ではないため、ある程度の目利きが必要になること。いい加減な店で、現状渡しの安い中古車

を買ってしまい、購入後の修理代でかえって高くついた…なんて話も聞く。特に輸入車の中古は、安かろう悪かろうになりがちだ。

このリスクこそが、中古車の最大のネックと言えるが、これを可能な限り回避する方法がある。それが認定中古車という買い方だ。

厳しい条件をクリアした程度良好な車両をベースに、十分な点検整備を施した認定中

古車は、それだけで安心度が高い。そのうえ新車並みの手厚い保証も受けられる。

この不景気な時代に、輸入車なんて贅沢だ…と思われるかも知れない。しかし、乗って得られる満足度が高く、長い間価値を保ち続ける輸入SUVを、新車並みの好条件で購入できるのだ。こんな時代だからこそ、真の価値に注目すべきだと思う。

